別紙様式（Ｂ４横型）

学校番号 ５６

平成１９年度　学校自己評価表　（　計画段階　・　実施段階　）

福岡県立太宰府高等学校長　　印

（Ｎ０２）

学　校　経　営　計　画　（4月）			評価（3月）
学校教育目標	1 知・徳・体の伸長と調和のとれた、情操豊かで進取の気概に充ち国際性に富み、将来国家社会に貢献できる人材の育成を目指す。 2 すべての生徒をわが子として育む学校を目指す。		B
昨年度の成果と課題	年　度　重　点　目　標	具　体　的　目　標	
1 成果 (1) 基礎学力の充実・向上 (2) 進路実績の向上 (3) 指導件数の大幅減少 2 課題 (1) 教科指導の充実・工夫 (2) 進路意識の早期確立 (3) 通学マナーの向上	1 生徒指導に基盤を置いた教育の徹底	ア 基本的な生活態度を涵養し、責任を重んずる誠実な人間となるための指導を行う。 イ 師弟同行の教育実践をとおして、生徒自らが本校に学ぶ喜びと誇りを持つ指導を行う。 ウ 生徒会の主体的な活動を促し、生徒の自主性を培い、社会の一員としての資質や態度を高める。 エ 生徒の現状を的確に把握できる体制整備に努めるとともに、適切な指導力の向上に努める。	
	2 学習意欲の向上と基礎・基本を重視した学習指導の徹底	ア 基礎学力の充実・向上に努めるとともに、生徒自らが積極的に学習する態度を育成する。 イ 授業内容の充実に努め、生徒の学習理解の深化を図る。 ウ 習熟の程度に応じた適切な教科指導を行う。	
	3 広報活動の充実	ア 本校の教育活動内容を地域・保護者・中学生に迅速・的確に公開・発信し地域に根ざした学校としての地位の確立を図る。 イ 広報活動を展開する立場から、本校教育活動の体型化・充実のための提言を図る。	
	4 生徒の安全面への配慮と健康の増進	ア 健康診断後の治療勧告を行い、健康管理能力の向上を目指す。 イ 安全点検、安全教育を定期的に行い、教育環境の安全や交通マナーの向上を目指す。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教科指導	1 生徒の実態に応じた指導を行い、生徒の学力向上を図る	ア 考査毎に結果の分析、・検討会を設ける（各教科）ことで、生徒の実態に応じた指導方法・内容の工夫・改善を行う。	A	B	B	1 学力向上に向けた取組を継続して行う。特に基礎基本を重視した学習指導については、教科・学年が連携して行う必要がある。 2 生徒の実態に応じた授業内容・課題・考査問題になるようにさらに検討をする必要がある。教科内における研修や教員個々の授業改善に向けた取組も一層の充実が求められる。 3 授業評価の時期と分析方法と授業への還元については更に検討する。 4 教育課程についての検討を継続し、できるだけ早い時期に教育課程検討委員会において審議する 5 教材の持ち帰り指導も含めた授業規律についての職員の共通理解を進め、生徒への指導を徹底する。 6 総合的な学習の時間やホームルーム活動の時間の内容の再検討や効果的な活用。
		イ 生徒による授業評価を年間２回行い、その結果を教科別・個人別に分析することで授業改善に役立たせる。	B			
	2 授業時間の確保に努める	ア 年間を通して授業時間の確保や授業時間の均等化を図り、実施授業時数を昨年度より増加させる。	A	A		
	3 学習環境の整備に努める	ア 教育課程について各教科で検討を継続し、教育課程検討委員会等において審議を行う。	B	B		
		イ 教材の持ち帰り指導、教室やロッカーの整備等を定期的・継続的に行い、学習する雰囲気作りにつなげる。	B			
進路指導	1 進路実績の向上	ア 進路意識を高めるため、総合学習・LHR 活動を積極的に活用し生徒の意識改革を行う。	B	B	B	1 自己の将来について、より深く考える機会を持たせる。 2 コース別進路実績などのデータを中心に広報活動の充実に努める。 3 教務との連携を深め、総合学習やＬＨＲの効果的な活用を図る。 4 実力考査に対する意欲を喚起する方策に取り組む。 5 模擬試験データの簡易化と分析、及び実情把握と今後の対策についての提言を行う。また、進路情報を適宜職員に伝達する。 6 生徒の実態に応じた課外を充実させる。 7 土曜セミナーは各学年の実態に応じて効果的に実施する。 8 コンクールなどの実施を通して、学習意欲の向上を図る。 9 ３年夏季進学セミナーをより充実したものにする。 10 「進路通信」の定期発行化を図る。 11 進路に関わる担任負担の軽減と効率化を進める。 12 進路行事の精選と充実化を行う。
		イ 模擬試験等の分析や各種調査をもとにした指導計画の提案を行う。	B			
		ウ「総合的な学習」を利用した３年間を見通した計画案を作成する。	C			
	2 課外授業の適正化及び充実化	ア ３学年「夏季進学セミナー」の実施と成果を検証し、検討する。	A	B		
		イ 朝課外・放課後課外・土曜セミナーの実施状況の検証と検討を行う。	B			
		ウ 進路希望を実現するため、生徒にとって充実した内容にする。	B			
	3 進路情報の発信 各種進路行事の充実 事務処理の効率化	ア「進路通信」などを通じて生徒・保護者に情報を発信する。	B	B		
		イ 進路行事の適正と充実を図る。	B			
		ウ 担任負担の軽減と進路事務の効率化を図る。	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(３月)			次年度の主な課題
人権教育	1 人権感覚に優れた生徒の育 成を図る	ア３回の人権教育特設授業において、参加体験型授業を工夫し、生徒の人権尊重意識の向上を図る。	B	B	B	1 参加体験型の授業は、随時工夫できているが、新たな教材の開発が必要である。 2 『かがやき』については、新たに電子版ができるので、その活用を工夫する必要がある。 3 細かに研修会への参加を呼びかける必要がある。特に地元で参加しやすい研修会への参加を呼びかけていきたい。
		イ 『かがやき』などの人権教育教材を有効に利用する。	B			
	2 人権尊重を基調とした教育 活動の実践を図る	ア 職員研修会を通して、人権教育の指導力向上を図る。	A	B		
		イ 研修会への積極的参加を呼びかける。また、優れた実践例を紹介し、指導力向上を図る。	C			
生徒指導	1 基本的生活習慣の確立	ア 担任・副任と連携し、遅刻・欠席を 0,4 %以内に減少させる。	B	B	B	1 特定の少数生徒が遅刻を繰り返している。家庭との連携を図りたい。 2 来年度は、風紀検査を長期休業後に 3 学年一斉に実施したい。 3 積極的な職員側からの挨拶や声かけを心がけることにより、生徒との信頼関係の充実を図りたい。 4 生徒会活動の趣旨を全校生徒にうまく伝え、全生徒からの協力が得られるよう工夫する必要がある。 5 学校行事が円滑に実施できるように､期間や内容について検討したい。 6 恒例となった高等盲学校とのマラソン大会による交流を成功させ、その他の活動においても積極的に交流を深めて生きたい。 7 生徒会の主催により、いろいろな関係機関と連携を図り春と秋に交通安全マナーアップキャンペーンを実施したい。 8 生徒の安全と地域からの信頼を得るため、登下校時の交通安全指導をより機能的に展開したい。 9 部活動強化により､全校生徒の意識改革(学校に誇りと自信)を進める。
		イ 定期的に風紀検査を行い、全職員で徹底した指導を行う。	B			
		ウ 生徒会の生徒を中心に挨拶運動を展開し、気持ちの良い学校にする。	B			
	2 生徒会活動の充実	ア 積極的に各種委員会を開催し、活性化を図る。	B	B		
		イ 生徒会が中心となり、体育祭・飛梅祭などの学校行事を成功させ伝統あるものにしていく。	B			
		ウ ボランティア活動の案内・推進また、地域及び他校との交流を図る。	A			
	3 交通安全指導の徹底	ア 交通安全教室を行うことにより、自分の安全を守ることや、地域住民の方々に迷惑にならぬよう交通マナーを身につけさせる。	B	B		
		イ 全職員による朝課外前及び下校時の交通指導を行う。	B			
		ア ５月と１０月に自転車安全点検を実施する。	B			
	4 特別活動の充実	ア 部活動の加入率を７０％以上にする。	B			
保健指導	1 健康管理に対する意識の向上	ア 健康診断後の治療勧告書については３者面談で担任より保護者に渡す際に確実に治療するように指導を行い、治癒率の向上を図る。	B	A	B	1 年度初めの計画通り健康診断を実施し、治癒勧告については３者面談で治療するよう働きかけたが治癒率については低い状況である。２学期においても継続して指導を行う必要がある。 2 保健室利用については昨年に比べ、授業中の利用が減少するなど改善がみられた。しかし、今後保健室登校の生徒が増えることが予想されるため、保健室の他に部屋を確保したり、カウンセラーを配属するなど対策を検討する必要がある。 3 教育相談活動については養護教諭が担任会に参加することにより、不登校の生徒の状況について詳しく掌握するなど効果を上げている。今後も継続して行い、適切な対応を心がけたい。 4 清掃活動については全教員による監督指導が実施され、全体的に見れば校内美化にかなりの効果を上げているが、中庭や食堂周辺など清掃後もすぐにゴミが散乱する箇所もある。次年度においては清掃重点箇所を特定し、清掃活動をさらに充実させていきたい。また、掃除道具や校舎内の器物の破損なども見受けられるため、ＨＲ等で日頃から指導を行うなど、生徒の規範意識を高めるための取り組みにも力を入れたい。
		イ保健室の利用については日頃から担任や養護教諭を通じて指導する。	A			
		ウ薬物乱用防止教育の指導内容の充実を図ることにより防止に努める。	A			
	2 教育相談活動の充実	ア 養護教諭が担任会に参加することにより、不登校や心に問題を持つ生徒に対しする状況掌握に努め、早期解決を目指す。	A	B		
		イ 欠席が３日以上の生徒については学年教育相談担当係に連絡を行う。	B			
	3 清掃活動の充実	ア 掃除監督については全職員で指導に当たり、清掃活動を充実させる。	A	B		
		イ 清掃が不十分な箇所や備品の破損箇所がある場合は職員朝礼にて連絡を行い、担任による早急な指導を徹底していく。	B			
職員研修	1 校内職員研修の工夫・改善	ア 教職員の力量養成のための校内研修会を各学期に適時に実施する。	A	B	B	1 今後も本校における教育実践や事例研究に学ぶ機会を取り入れ、教育技術の共有化が図れるよう努める。 2 「生徒のやる気を引き出す」などの重点的テーマを設定した特別研修を企画する。 3 分掌や学年組織を活かした主体的な授業研究等を支援する。 4 一学期のうちに教科の枠を超えた活気ある相互授業参観を実施し授業改善を図る。 5 教育実習の実を高めるべく、学校挙げて指導体制を組む。
		イ 本年テーマ「生徒のやる気を引き出す」のもと研究授業を推進する。	B			
		ウ 特別活動､特にホームルーム活動の授業研究を新たに実施する。	C			
	2 校外研修及び教育実習等の 支援・充実	ア 教育センターをはじめ校外研修への参加を促進する。	B	B		
		イ 教職の専門性を高めるべく個々人の意欲的な研修を支援する。	B			
		ウ 教育力の高い教育実習の改善に努める。	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(３月)			次年度の主な課題
図書	1 生徒の読書意欲の喚起	ア 学習情報センター・読書センターとして機能できるよう、資料・蔵書の充実を図る。	B	B	B	1 各種広報誌の発行や図書館終礼を実施し、来館者の増加を目指したが、思ったような成果は得られなかった。来年度は授業での利用を促進するとともに、先生方に来ていただける図書館を目指し、授業等で籍紹介をしていただけるようにしたい。 2 他校と交流する「心の虹」運動の継続ができなかった。来年度はぜひ相手校を探したい。 3 朝読書の一層の定着を、他の分掌と協力して行う必要がある。
		イ 新入生への図書館オリエンテーションを実施し、資料検索法やマナーの周知徹底を図ると共に、図書館に親しんでもらう。	B			
		ウ 図書委員を育成し、自主的活動を積極的に支援する。	B			
	2 朝の１０分間読書のサポート体制の確立	ア 各種広報紙を発行し、図書の紹介に努める。	A	B		
		イ 「心の虹」運動を継承し、さらなる発展を図る。	C			
芸術科	1 芸術科教育の充実に努める。	ア 芸術科教育内容を充実させ、本格的指導を定着させる。	B	B	A	1 １年生においては芸術科教育の定着のために徹底した個別指導を行い、教育目標へ向けてさらなる指導を行った。結果として新聞等に多数掲載され実績を残した。課題として1年の生徒数が少ないので指導方針の再考が必要である。 2 ２年生においては科の中心学年として学習面や制作面において模範となるべき指導を図った。その結果、昨年に引き続き美術・書道ともに高レベルで金賞、その他多数実績の結果を出すことができた。しかし、学力面において上位と下位の差が広がり、クラス単位の指導が困難であることが今後の課題となっている。 3 ３年生においては教員間で綿密な話し合いを重ね、進路に即した個別指導を行い、例年並の成果を目指している。卒業制作展は早期から運営の指導を行い、1300 名を超える来館者となり成功をおさめた。次年度もこのような活動成果を中学生進路相談事業や中学校単位、個人単位の学科案内等で広報に努めることが必要である。 4 今年度特に 飛梅祭中学生招待の企画、2 回にわたる実技講習会を実施して芸術科の教育内容を周知させることができた。結果的に受験希望者の増加につながり本科開設以来最高の倍率となり生徒獲得に結びついた。よって次年度もこれらの計画を実施する予定である。
	2 希望に沿った高い目標の進路実現を目指す。	ア 生徒、保護者、地域が要求する高い進路目標を実現させるため、科独自の指導体制を作り、一致して取り組む。そのために 実技指導、公募展出品等、実績を積ませる。芸術科生全員が何らかの展覧会で入選を果たし、95 パーセントを上回る入選率を目指す。多様な進路に対応する。進路実現達成率 90 パーセントを目標とする。	A	A		
	3 広報活動に努め、芸術的な意欲を持った生徒を募集する。	ア 芸術科教育に応える意欲ある生徒募集のため、生徒職員一丸となり本校芸術科（美術・書道）の教育内容の広報に努める。また、各地区中学生進路相談事業へ参加し、本校の芸術教育の 周知徹底に努める。 イ 体験入学のみならず、中学校単位、個人単位の学校見学も積極的に受け入れ教育内容を理解してもらう。	A	A		
	4 国際性の涵養と情報教育を行う。	ア 本校芸術科の特色作りと国際性、社会性の涵養のため、国内研修を行う。また、海外研修にも積極的に取り組む。 イ 国内研修にあたっては情報教育にからめた事前研修を十分に行い 、実りあるものとする。	B	B		
英語コース	1 進路実現	ア 面談等の個別指導を強化し、多様な進路希望に対応する。	A	B	A	1 大学入試を受験する生徒が多いが、推薦入試に流れる傾向があるので、一般入試を受けさせ最後まで引っ張っていく。ただ、留学した生徒に関しては自己推薦などを使って受験させる。そのための情報収集が重要となる。 2 専門科目のシラバスについての見直しを、生徒の能力に合わせて手直しする必要がある。 3 英語コースの担任の負担を軽減するために、行事の精選を行う。 ・広報活動の強化を行う。ホームページの刷新をこまめに行ったり、中学校に定期的に FAX で英語コース通信を配信する。 4 ２学期は芸術科と一緒に、実技講習会を行い体験授業を実施、中学生に宣伝する。 5 広報活動は一部の先生に偏らないように、英語科全員で取り組んでいく。 6 太宰府高校の他教科の先生方にも英語コースを理解したもらうよう努める。
		イ 英語・国語・社会の担当教諭との情報交換及び連携を図る。	B			
	2 英検対策	ア 正規の授業で体系的に英検対策を実施する。	A	A		
		イ １年（全員準２級合格）２年（２級合格１０名以上）３年（全員２級合格）を目標にさせる。	B			
		ウ 資格試験合格を学習全般の動機付けにする。	A			
	3 英語運用能力向上	ア 英語劇・サマーキャンプ・海外研修・暗唱・弁論大会・ディベート大会など、積極的に行事に参加させる。	A	A		
		イ 専門科目指導を充実させる。３年間を見通した指導内容を検討する。	B			
	4 広報活動	ア 中学校訪問・体験入学・APU ツアー・暗唱大会・学習塾訪問など意欲的に取り組む。中学生一人一人に情報が行くようにする。	A	A		
		イ ホームページの充実を図る。	A			
		ウ 出前授業に出かけたり、中学生を受け入れる機会を増やす。	A			